

令和 8 年度 磐田市地域福祉推進会議及び  
磐田市社会福祉協議会地域福祉推進会議 会議録

【日 時】 令和 8 年 5 月 2 8 日（木）午前 9 時 3 0 分～午前 1 1 時 1 0 分

【会 場】 磐田市総合健康福祉会館 i プラザ 2 階ふれあい交流室 1・2

【出席者】 1 3 名

【欠席者】 2 名

【事務局】 行政：5 名 社協：6 名

1 委嘱状交付

2 あいさつ

磐田市健康福祉部佐原部長および磐田市社会福祉協議会竹森会長から挨拶と地域福祉推進への感謝の言葉があった。

川端委員長より本日の会議の趣旨を伝え、議事に入る。

事務局

委員総数 1 5 名のうち出席 1 3 名で半数以上の参加により会議成立を伝える。

3 議事

(1) 第 4 次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の評価について

資料に基づき市福祉政策課担当者及び市社協担当者から第 4 次の評価、市の取組・課題市社協の取組・課題について説明した。

委員長

事務局からの説明に対し質疑、意見をいただきたい。

委員

居場所の団体から運営資金に関して。今の時代、地域づくりにおいても単発の助成金をあてにするとか、特定の方が頑張るために居場所を頑張って維持するという時代ではなくて、いろんな方面から考えて居場所を継続できるような考えに転換していかないといけない。評価書に課題が記載されているが、居場所のやり方に応じて運営方法を考えていかないといけないということではないかと思う。自分たちがやれることを主体的に考えて行動しないといけないのではないか。支出内容や活動目的を明確にして、見える化を図り、公的機関と連携して住民のためになる関係づくりに進化しないと助成金の申請ばかりではいけないと思った。私も NPO 法人に関わっているが、補助金は減ってきており、収益を得るためにはどういうふう新しい事業をしたらいいのか智恵を絞っている。最初に委員長がおっしゃったとおり、行政、市社協、地域との関係をもう一度見直していく時期ではないかと思う。つくづく感じた。

## 委員

NPO 法人やいろいろな活動団体がある。居場所づくりに関して相談を受けることがあり、その中で活動資金についての意見も寄せられている。先日受けた相談も外国にルーツを持つ方も参加できる居場所ということだった。以前と比較すると居場所の対象者が拡大し、奥も深くなってきている。そこで、居場所＝福祉という考え自体がどうだろうか。もともとはそうだったかもしれないが、今は社会教育的な視点での居場所も大切な意味があるのではないか。運営側も参加側も生涯元気で長生きできるための自分の心の拠り所というか生きがいつくりの場と考えた時に、新たな助成金というか補助金の仕組みを考えていかないと、せっかく想いがある方がいるのに挫折してしまう。今後の課題とすると実態把握をもっと丁寧にやること、交流会の場などで幅広く願いや仕組みづくりについて丁寧に話を聞くことから始まるのではないか。

## 委員

NPO 法人の活動で市から助成を受けている学習支援に関わっているが、一つの団体で全てのニーズに応えられない。例えば勉強をしたい子と賑やかに交流したい子がいると片方が委縮して、来ることが出来なくなってしまうこともある。実際活動するとそういった問題が出てくる。スタッフ間でもやりたいことへの想いがそれぞれ異なる場合もあり、1つの場所でやりきれず、活動が分かれ、補助金を受けられなくなり相談を受けた団体もあった。法律に基づいて居場所の設置は定められているが、設置しているか、していないかの調査では1か所でも運営していれば足りているという判断だと思うが、実際は必要とされている援助も運営方法も運営する方々の想いも多様化している。そういう実態に対して少しずつでも支援され、磐田市全体が盛り上がっていけばいい。

## 委員

目標値の設定のあり方自体が疑問。現状値を設定している令和3年度はコロナ禍の終わり頃だったと思う。そうすると社会情勢も変化している所である。今後の見通しが出来ない中で数値を設定している。今後計画を立てる時の目標値の設定について、期待値が大きいと評価が下がる。福祉の世界は特にそうだが、人が動かないと団体数も増えていかないし後継者も繋がっていない。いくら育成しても継続性に疑問なところもある。社会貢献をしようという想いのある人が年々少なくなっているという時代の流れも見据えながら目標値の設定を考えたらどうか。

## 事務局

こうであって欲しいという将来像を描きながら目標値を設定しているが、コロナ禍を経て目標には届かないこと、届いたとしても地域づくりや人づくりは今後も継続して取り組んでいくところだと思っている。ただ単純に数値だけで終わるものではないと

考えている。

委員長（議長）

他に質問がなければ議事(1)は以上とする。

(2) 第5次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定にかかるアンケート結果について資料に基づき福祉政策課担当者より説明が行われた。質問、意見は次のとおり。

委員長（議長）

アンケート結果には年代別の統計があるが本日若い世代の方が参加されているので、全体を通しての印象でも感想でもご意見をいただきたい。

委員

アンケート結果から地域との繋がりを持ちたいという意見は7割、地域活動、ボランティアへの参加経験も約7割ということで、そもそもやりたいと思わないのではないかと思った。自分も小中高校と上がった中で、ボランティアと触れる機会があったと思うがその時は気付かず、今となれば学校へもボランティアが来てくれていたんだなと感じている。それはここへ参加していろいろお話聞いて繋がったこともある。そういうことを義務教育のうちからボランティアに触れて根付かせていくとボランティアへ参加したり知りたいたいという気持ちが芽生えていくのではないか。

委員

私は大学生になってからボランティアへ積極的に参加している。きっかけは軽い気持ちだったが活動に参加していくうちに地域の方、関係機関などいろいろな方と関わる機会があり、そのうち楽しくなりそれが居場所づくりに繋がると実感した。一方アンケート結果で地域行事に特に参加したくない、との回答もあり衝撃を受けた。大学生だとボランティアの情報が入ったり、授業で市社協と関わることもあったりするのでそういう機会を増やしていけば、大学生が地域と関わる機会やボランティア活動へ参加するきっかけとなるのではないか、それが居場所づくりに繋がっていくのではないかと感じた。

委員

1点目。有効回答数が862となっている。この回答数を基に第5次地域活動計画・地域福祉活動計画を作っていくのかということに非常に疑問。もう1点。今若い世代の方の意見を聞いて、自分は南御厨せいかつ応援倶楽部を立ち上げた。どの地区も支援員が足りない。中学校の校長先生へ中学生が関われないか相談に行こうとしたこともあるが、他市では生活支援活動に高校生が参加している例もある。そういう意味で中学生も部活の地域移行の話もあり、福祉に興味を持っている方もいるかもしれない。そこで隣近所のおばあち

やんの家のごみを中学生が出しに行くというようなことを呼び掛けていく。そういう人と人との繋がりの中で福祉について理解を深めていくことができればいいと感じた。

#### 委員

先日中学生向けのボランティア説明会へ行った。その時にこの会のためのボランティアではないということを伝えた。ボランティア活動は単発だと思っている学生も多いが繋がっている。ボランティアをやりたいという手を上げる中学生も減ってきている。家族でボランティア経験がないと子どもだけ活動するのは意味が薄れてくると感じている。ボランティアについて家族で話し合うことが大切ではないか。誰かに言われたから参加するのではなく、自分が主体的になり、意思決定できるようになることがボランティアであることを伝えた。体験や経験がこれからの人生に繋がるということを伝えた。

- (3) 第5次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画にかかる基本方針等について  
資料に基づき福祉政策課担当者より説明が行われた。質問、意見は次のとおり。

#### 委員長（議長）

まだ発言のない委員よりご意見をいただきたい。

#### 委員

アンケート結果についてよくまとめられている。また活動についても熱心に取り組んでいる。先ほどから出ている話題について、視点を変えた発言になるかもしれないが、日本国内の外国に対するガイドブックがあるがその中で『まちがなぜこんなに綺麗なのか』『なぜマスクをしている人が多いのか』について説明をしている。その説明の中で日本は義務教育の中で小さい時から身の回りを綺麗にしようとか周りの人に親切にしようとかの教育を取り入れているためとしている。福祉についても小中学校の中で必要だと感じた。そういった意味でもこの席に教育委員会、教師の数が少ないのでPRが必要ではないかと感じた。

#### 委員

市の福祉政策がどういうふうになってきたかということを体系的に分かり、意義があったと思う。私は民児協として、民生委員がどういうふうに関わったらいいかということ考えた。やはり必要な人に支援がどういうふうが届くか。私達民生委員が一番住民の身近にいるが、市のいろいろな政策が、届いていないのが実感である。例えば市からスマホでの安否確認が紹介されたので、早速町内の高齢者宅を訪問したが、対象者となり得る80代後半の人たちはスマホを使用していないし回覧板もしっかり見ていないというふうを感じる。そういう中で民生委員がどのように関わったらいい

いのか。孤立・孤独の問題に関しても、やはり一番身近にいる民生委員としては、対応していかないといけないと思うので、今日磐田市が福祉についてどう考えているのか全体像が分かり、有意義なものだったと思う。

#### 委員

民間企業の代表とあるが視点が新聞販売組合としての見守りという部分になる。高齢者の見守り、昨年度から警察と協力して夜中の不審者の見守りに取り組んでいる。そういった見守りもいいが、昼間に高齢者や障害者が車椅子を使用していたりするとスーパーで買い物をするのにも苦勞している場面が見受けられるので、そういう方もこの会議に参加した方がいいのではと思う。また、資金面での課題については磐田市にはヤマハ発動機やスズキといった大きな企業があるのでそういった企業の労働組合などへ声を掛けて協賛や協力を仰いでもいいのではないかと思った。

#### 委員

計画策定の中で『必要な方への支援を届ける仕組みづくり』とあるが、ここはどういった形となるのか。私も地域でいろいろな方と関わっているが民生委員から話があり訪問するお宅は多く、現状見えていない部分がたくさんある。本当に困っている方は、このSOS自体出せていないのではないかと感じる。そういったところに少しでも入っていけるような形で支援を届ける仕組み作りができていくといいと感じた。

#### 委員

自分の関わる介護分野について、必要な方、困っている方へ福祉介護の情報を届けることがテーマとなっている。困っていてもどうしていいか分からない、相談する先が分からないというのは地域包括支援センター含め、他の機関もそうだと思うが、いろんな取り組みをしている法人内でも子どもを対象として福祉教育の実施や福祉施設として垣根を越えて困った時にどうしたらいいかということへ取り組んでいるが、限界を感じる。先ほど高齢者はスマートフォンがなかなか使えないということが挙げられたが、本人が困ったときに動けるのは周りの家族なので、時代の流れにより、スマートフォン、SNSは大切だと思う。もう1点、数年前から国内でも現金ではなく他の決済システムを使っていけるように、急激に進歩している。その時代に合わせた仕組みを活用して相談窓口が選べる、情報を自分で取ることが出来る仕組みができればいいと思う。本当に困っていないと市役所などの機関へ相談に行くかは疑問。相談に直接行くということは、ハードルが高いのでは。今の時代、スマホ一つでいろんな情報を取る時代になっているので、そこでもう少し新たなツールが出来ると、福祉の情報を選択する一つとして活躍していくのではないか。この地域福祉計画・地域福祉活動計画の中に『分かりやすい福祉情報の発信』とあるので、そういう部分も新たなものを考えていくものがあるといいのかなと、努力はしているが自分たちの広

報活動に限界も感じている中で感じる。

#### 委員

有効回答数については同様に感じた。私もこういった場に参加しているので、周囲にアンケート回答の呼び掛けをしたが、先ほどA Iに弱い高齢者が多いという発言があったとおり、市のホームページなども見たことないという人の方が多い。やはり、もう少しそういう人たちの意見も拾う工夫も必要。それからボランティア活動について少し興味はあるが、参加しづらいという声があったが、私は地域活動ではなくボランティア活動を主にやってきた。他の方の発言にもあったように、みんな得意分野は何かしら持っている。その得意分野を活かすことは、地域や自分自身のためにもなり、お互いの居場所づくりにもなる。ボランティア活動には、ご自分の技能能力を生かす活動やその他、対象を絞っての活動など多様化している。是非皆さん、自分を活かすボランティア活動へ参加して欲しい。

#### 委員長（議長）

計画策定についての考え方や今後のスケジュールについて、概ねご了承いただけたと思う。今日の意見を基に、事務局の方で、考え方や表現の修正など細かなところを考えていただき、第5次の計画などの基本的なことが示されることと思う。

#### 4. その他

次回日程：令和8年8月27日（木）午前9時30分～11時00分

i プラザふれあい交流室 1.2

#### 5. 閉会